TSUMUGI通信 VOL.29

2022年8月17日



2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です



一般社団法人地域連携ネットワークみえ

三重県伊勢市御薗町長屋1963

(株)エホ*リューション内 (含0596-63-5080 FAX0696-65-7006)

E-mail info@3c-mie.net https://3c-mie.net/



最近は蚊に刺されることが少ないと感じたら猛暑が続いているという現状の証しだそうです。

というのは蚊は気温が25℃から30℃の時が活発になるそうで、35℃を超えると草や葉の裏で暑さをしのいでいるから。

人間は酷暑だからと常に草木の影という訳にはいきませんから、しっかりした熱中症対策をとったり、エアコンの効いた家や建物の中で過ごすことになります。

しかし昨今は一般家庭にも節電が求められるという深刻なエネルギー問題が顕在化しています。 そこで、こうした社会課題への一助となるのが、個々人の意識と行動であり、マイカー移動を自転車 に替えるといった策も一つの方法です。

今回は、自転車に着目した3市5町の取り組みを伊勢市から発信していただきます。また、デジタル技術で地域課題に取り組もうとするデジタル田園構想について多気町に投稿いただきました。

伊勢志摩地域における自転車等活用検討会がスタートしました!

伊勢志摩地域の**8市町(伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町)**は、 生活圏を共有し、社会・経済・教育などの面で結びつきも深く、「伊勢志摩定住自立圏」として相互 の連携を深めながら、誰もが住み続けたいと実感できる圏域づくりを目指しています。



昨年、伊勢志摩地域を含む太平洋岸自転車道が「ナショナルサイクルルート」として選定されたことをきっかけに、令和4年7月1日に「伊勢志摩地域における自転車等活用検討会」を設置しました。



伊勢市 鈴木市長

この検討会では、伊勢志摩地域の8市町と事業者が同じ方向を向き、自転車交通 の促進やサイクルスポーツ・サイクルツーリズムの推進など、これからの自転車の 活用方針を検討、策定していきます。



自転車は、新型コロナウイルス 感染拡大を防ぐ「新しい生活様 式」において、密を回避できる移 動手段としても推奨されていま す。自転車が道路環境、観光、交 通安全、スポーツ、健康、環境な どの分野において貢献できるよ うな地域づくりを目指すと共 に、公共交通機関の利用も含 め、多様なおでかけ環境を充実 させていく予定です。

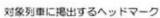
画像出典 <u>https://www.mlit.go.jp/road/bicycleuse/good-cycle-japan</u>(国土交通省)

松阪駅~賢島駅間のサイクルトレインが本格実施

近鉄では本年4月実施のサイクルトレインを2022年9月3日 (土)から多客期を除き通年で実施します。

2022年8月10日近鉄ニュースリリースより







サイクルトレインご利用イメージ



イメージ写真

伊勢市駅前には「伊勢市駅 前手荷物預かり所」でシティサイクルをレンタルして いますし、「外宮前観光案内 所」では、電動アシストのE バイクをレンタルされてい ます。

今は新型コロナ感染の影響 もあり自転車観光が増えて いるそうです。

デジタル田園構想について多気町からご紹介します~多気町役場デジタル戦略室

岸田首相を議長とする「デジタル田園都市国家構想実現会議」に おいて、2024 年度末までにデジタル実装に取り組む地方公共 団体を 1,000 団体とする目標を掲げ、デジタル田園都市国家構 想推進交付金が創設されました。

当該交付金は TYPE1、TYPE2、TYPE3と区分があり、

採択件数としては、TYPE1:403 団体 TYPE2: 21 団体

TYPE3: 6団体

そして<mark>多気町、大台町、明和町、度会町、紀北町</mark>の5町はデジタル田園都市国家構想「**三重広域連携モデル**」として、当該交付金 **TYPE2**として採択されました。



郡部をまたぐ5つの町同士が連携したデジタル田園都市国家構想は、全国にこの「三重広域連携モデル」だけであることもあり注目されているところです。

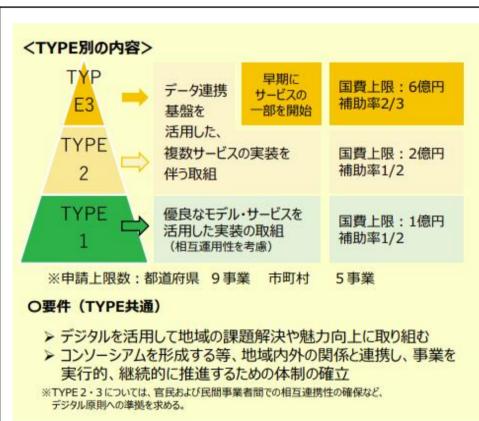
同じ地域課題を抱えるそれぞれの町が連携して<u>デジタルという手段で地方創生という目的を達成すべく</u>、これから連携して取り組んでいく計画です。

「三重広域連携モデル」では、交付金を活用して、共通地域ポータル健1 やデジタル地域通貨健2 などのデジタルインフラの構築とデータ連携の構築を行う予定です。

その一つに、観光メタバースポータル(1)(下図)があります。 3Dマップ上に連携する各町の観光情報や地域情報を載せ、 利用者が使いやすいようにパーソナライズされた情報が表示 される観光ポータルサイトです。

SNS情報とも連動しているので、常に最新の情報が閲覧できるMAPです。

また、三重県観光マーケティングプラットフォームと連携し、 OTA機能やCRMやMA機能を充実させていきたいと考えて おります。 (多気町役場デジタル戦略室 地域戦略係)



[ワンポイント解説]

- (建) 共通地域ポータルは、あたかも一つの 自治体かのように窓口を同じにする発想。
- (型2 デジタル地域通貨は、従来の紙幣や通帳型の地域通貨をデジタル化した電子決済手段でスマホアプリでの QR コード決済が主流になっています。
- ●3 メタバースとは、Meta と Universe から形成され、現実社会とは異なる空間を 意味します。メタバースポータルは仮想空間 の入口を入りバーチャル体験をして地域を 知ってもらう機会をつくります。





出所:内閣府地方創生推進室デジタル庁

「三重広域連携モデル」について

- ・実施主体は、多気町・大台町・明和町・度会町・紀北町・三重広域連携スーパーシティ推進協議会となっています。
- ・その取り組み内容は、
- ① 行政 DX 地域情報サービス ~ 持続可能な地域サービス
- ② 医療ヘルスケア・サービス ~ 健康寿命促進施策
- ③ 地域キャッシュレス・サービス ~ 地域経済活性化施策
- ④ デジタル観光マーケティング ~ 地域産業育成施策

●事業実施を機能的に実行するための体制として、

「一般社団法人三重広域連携 One プラットフォーム」が実施する。 「中心的事業者:ヴィソン多気株式会社、三十三銀行株式会社 出資予定:参画中核企業(大日本印刷など)